［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成19年10月17日

【評価実施概要】

事業所番号	３７７０１０３０８７
法人名	株式会社菜の花
事業所名	グループホーム菜の花
所在地	香川県高松市飯田町１０４番地１ （電　話）

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年8月22日	評価決定日	平成19年10月17日

【情報提供票より】（19年　8月　1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　16年　5月　15日	
ユニット数	2ユニット	利用定員数計　18人
職員数	16人	常勤　14人、 非常勤　2人、 常勤換算　6．0人

（2）建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	1階建ての1階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	36，000円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） （無）		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	200円
	または1日当たり		円	

（4）利用者の概要（　8月　1日現在）

利用者人数	18名	男性　4名	女性　14名
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	6名	要介護4	6名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢　平均　83．2歳		最低　63歳	最高　104歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	山下内科小児科医院、キナシ大林病院、池田歯科医院、全人クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、住宅地と田園の中にあるグループホームで外観が地域に溶け込んでいる。玄関ホール正面のスタッフルームを挟んで、左右に1ユニットずつ配置されている。運営理念の“私達は入居者様、ご家族及び職員が知恵、技、力を出し合い、入居者様を中心に皆で睦みあい親しみを深め尊重しあう楽しく穏やかな我が家作りを目指しています”のとおり、目標は介護の業界で一番の夢を抱き、常に立ち止まることのないよう、歩み続けたいという高き目標をもったグループホームである。運営推進会議も2か月ごとに開催し、整理された議事録をとり、活発な意見交換され、次回につながっている。協力医療機関との連携も密にとれており、協力体制が確保されている。施設長が看護師で常勤しているので、入居者、家族、職員が安心して暮らし、共に支えあい生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価で、個別の記録、相談、苦情受付の明示についての改善課題があったが、評価を活かすため、施設長や職員が課題を共有し、具体的に解決できるところから意欲的に取り組んでいる。日常的に注意の必要な物品の保管、管理の改善が望まれる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

月1回のカンファレンス会議や全体会議で、自己評価について話し合っている。各ユニットの管理者が中心になり、自己評価に取り組んでいる。気になっていることは申し送り等を利用して、話し合い、自己評価につなげている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議では毎回議事録を作成し、出席者、家族、職員に周知している。また、出席者に次回の案内と一緒に意見も聞いている。地元の自治会長、寿会会長、民生委員児童委員、市介護保険課、利用者家族会、地域包括支援センター職員代表で構成されている。内容は、ホームの活動報告行事、職員研修参加状況、事例報告等で、活発な意見交換が行われている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族には毎月、生活状況、医療・看護総括事項を便りで個別に出している。年4回予定しているグループ便りで、職員の異動や行事等の報告を行っている。玄関の外に苦情ポストを設置しており、家族や地域の方が投函しやすいように工夫している。家族の意見反映については、面会時、家族会、運営推進会議等で意見を傾聴し、サービス向上につなげている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

入居者全員が自治会に加入している。また、心療内科の先生の勉強会に、地域の人が参加したり、老人会の方が風船バレーに参加している。運営推進会議の議事録、菜の花便りは、コミュニティセンター、協力病院にも設置し、地域の方に理解を得るように取り組んでいる。

2.　評 価 結 果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社方針の「真実かどうか」「みんなに公平かどうか」「みんなのためになるか」及び「好意と友情を深めているかどうか」の基に、「私達は、入居者様、ご家族及び職員が知恵・技・力を出し合い、入居者様を中心に皆で睦みあい親しみを深め尊重しあう楽しく穏やかな我が家作りを目指しています。」というグループホームの運営理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申送り時、全職員が声を出して復唱している。理念に基づき認識することで、利用者は「者」ではなく「人生の先輩として敬う」介護技術、実践の向上に努めている。また、各職員の名札の裏に理念を記載し、常に理念の共有を心がけている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に全員加入している。老人会の方が風船バレーに参加したり、団地内の方が月に1回、ボランティアでボディータッチでの歌謡ショーや、地域の方が認知症の勉強会に参加している。菜の花便りは、コミュニティセンター、協力病院に設置し、地域の理解を得るように取り組んでいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善項目については、具体的に改善できることから取り組んでいる。家族とのコミュニケーションをとりながら、家族アンケートを実施し、より良いケアを目指して、特に医療面での心配に対して解決を図るよう改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動状況、行事、研修参加事例についての説明等を、事業者が報告している。参加メンバーから質問、意見、要望を受け、検討事項や懸案事項について、その過程を報告し合い、ひとつひとつ積み上げている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営やサービスについて、内容や意味が分からなかったり、不明瞭な場合、常に、市の担当者に指導を仰ぎ、サービス向上に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりに対して、家族便りを出している。受持ちの職員が記入した生活状況や、医療・看護等全体的なことに分かれて報告している。小遣いの管理は、家族から金銭を預かり、小遣い帳を利用して、出納を明らかにしている。また、職員の異動は、年4回の菜の花便りや面会時などを利用して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に職員が状況を報告し、意見、不満、苦情等を伺っている。運営推進会議において、家族が出席しているので、要望等を協議し、運営に反映し、職員間で話し合いを行い、共有して取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前回の外部評価の前に、職員の離職があったが、現在は安定して勤務している。新規採用者が夜勤に就く場合、必ず2～3回程度、指導する職員と勤務する等、最善の配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部外研修等、機会があれば勤務時間内で参加している。また、即、伝達し、実践に移している。部内教育は、診療内科の先生から10回シリーズで実施し、事例にそった講義のため、大変理解しやすく、職員全員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム4か所で1～2日勤務する等の職員交流の機会を設けたり、部内の勉強会に参加してもらう等の交流をもって、当ホーム外の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人及び家族が、安心し納得できるように、グループホーム利用開始前に何回かホームを見学し、自然に馴染んでもらっている。サービス利用は、利用者本人と理解し工夫しながら、サービス開始となるよう取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が主役、職員が脇役という取り組みに努力している。野菜作りや打ち込みうどん作り等、人生の先輩として、時に利用者に教えてもらったり、共に一つの家族として、お互いに接しており、本人らしい自然な表情で、穏やかに自由に生活している様子がうかがえる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の聞き取り調査で、生活上のニーズを明らかにしている。利用者の毎日の行動や表情から、思いや願望を把握している。利用者の中で詩を書いている人がおり、詩によって職員が励まされていることを伝えることにより、自信に繋がっているケースがある。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月1回のユニット会議で、介護予防も含めての利用者の状態を把握し、意見交換を行い、気づきやアイディアを活かして、個別に具体的なプランを作成している。家族からの意見は、面会時、利用料金支払い時等を利用して、事前に話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直しを行っている。利用者一人ひとりの状態に応じて、随時、現状に応じた新たなプランを作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム単一の事業所であるため、自宅で生活しているのと近い状況で、臨機応変に支援している。	○	地域の声、家族の声などの実情を把握して、グループホーム菜の花独自の理念を活かした支援が望まれる。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人及び家族の希望に沿って、協力医療機関から2週間に1回内科、週1回歯科、週1回神経精神内科の訪問診療等を定期に受けており、協力病院とはスムーズに連携が取れている。施設長が看護師の経験を活かし、利用者の状態を随時に読み取り、適時に、医師や家族等に連絡して、的確に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居している家族から医療連携同意書をとり、「急性期」「慢性期」「重介護」「終末期」及び「入院時」の内容に分かれた方針を明らかにし、関係者全体の統一を図っている。終末期における医療処置の対応支援や具体的内容を話し合い、当ホームが対応し得る最大のケアについて、常に話し合っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	名前の呼び方は、利用者、家族と話し合い、長年呼びなれた一人ひとりに合った呼び方をしている。個人情報については、機会がある度に職員に伝え、反映している。例えば、面会票については一人に一枚で切り離し、氏名等を記入するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴、食事時間、入浴時間は、一応決めているが、時間を区切った過ごし方はしていない。利用者のその日の状態や身体能力、希望を優先し、多くの時間を利用者一人ひとりが自分のペースで過ごしており、職員は見守りながら支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけ、後片づけ等は利用者と共に行い、利用者と職員全員が、同じテーブルを囲んで見守りながら、楽しく食事をしている。献立も利用者と考え、職員が交代でたてているので、バランスが良く、偏りがない。また、利用者と一緒に作った野菜等を、食材として使っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や入浴回数等は、利用者本人の希望に沿っている。希望があれば、夜間入浴も行っている。機械入浴は午前中に、介護者2名で支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活暦や趣味等を活かした野菜作りや、昔、うどん屋だった利用者にはうち込みうどん作り、他の利用者が塗った絵に合わせた詩を書き、合作を楽しんでいる利用者もいる。詩によって「職員が励まされている」ことを伝えることにより、自信に繋がり、張り合いや喜びある日々を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの身体的状況と希望に沿って、朝食後、夕食後に、庭に出て、思い思いの時を過ごしている。季節ごとの花見、バーベキューパーティー、ファミリーレストランでの外食、買い物等、戸外に出かけられるよう支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開け放された状態である。徘徊者がいる場合でも、職員が見守りを重視し、外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけ、職員も一緒に外出する等、安全面に配慮し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の避難模擬訓練を、年2回以上実施している。火災発生～緊急脱出～誘導訓練を、消防署指導に基づき行っている。特に、近隣の住民には協力を依頼している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みのもの、馴染みのもの、美味しい物などを聞き、職員が交代で献立をたて、栄養バランスを考えている。検食法を備え付け、食事量、水分摂取量を記録している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今は玄関を開放し、ホーム内の空気がよどまないように、天窓と玄関で空気の流れを作っている。さらに、お香を焚いて心が和むようにしている。西側の窓際に苦瓜を栽培し、涼しさが伝わってくる。フロアの飾りつけに、天井に夏祭り用の提灯をぶら下げ、開放的で季節感を採り入れ、工夫している。	○	トイレ、浴室の洗剤が、利用者の手の届く所に置かれているので、職員間で保管方法について話し合いが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の表札は、自宅感覚で苗字で表している。居室は利用者個人の作品、ぬり絵、切り絵、グループホームの中でとった写真等を貼っている。花の好きな利用者は、観葉植物を育てている。整理ダンスには利用者が取り出しやすく、整理しやすいように、ラベルを貼る等の工夫をしている。		